

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 116号

2014/10/27 発行
株式会社 立花商店
坂元 麻美

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：新たな材料に乏しく週を通して小動き、NYは先週比で下落

① 最高 12月 LDN 市場£2,031 /12月 NY 市場\$3,120 (10/23,20) 先週比 **LDN-£33/NY-\$33**
② 最低：12月 LDN 市場£2,023 /12月 NY 市場\$3,050 (10/21,24) 先週比 **LDN+£25/NY-\$9**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£8 (傾向→) / NY 市場\$70 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 240,327枚(10/17終了時)⇒240,495枚(10/23終了時) **+168枚**
NY市場 197,804枚(10/17終了時) ⇒199,625枚(10/23終了時) **+1,821枚**

【10月20日(月)】ニューヨーク続伸＝ロンドン反落

ニューヨーク市場は続伸。12月きりは2ドル高の**3120ドル**で終了した。ロンドン市場は反落。12月きりは6ポンド(0.3%)安の2028ポンドで引けた。エボラ出血熱がカカオ豆世界最大産地のコートジボワールにも拡大し供給が途絶えるとの懸念や、16日に発表された米国のカカオ豆に対する需要の強さを示すデータが先週の相場を支えた。アジア地域の第3四半期のカカオ豆圧砕高は今週後半に発表される予定。

【10月21日(火)】ニューヨーク、ロンドンとも下落

ニューヨーク市場のココア先物は反落。12月きりは、10ドル(0.3%)安の3110ドルで引けた。ロンドン市場の3月きりは、6ポンド(0.3%)安の1992ポンドで引けた。12月きりは**2023ポンド**で引けた。

【10月22日(水)】ニューヨーク、ロンドンとも小反発

ニューヨーク市場のココア先物は小反発。12月きりは3ドル(0.1%)高の3113ドルで引けた。ロンドン市場も反発。12月きりは6ポンド(0.3%)高の2029ポンドで終了した。

ある市場関係者は「コートジボワール、ガーナの生産の先行きは非常に良好だ」と語った。ディーラーによると、23日は7～9月期のアジアの圧砕統計が発表される見通し。前年同期比で減少が見込まれ、10～12月期も一段の減少が見込まれるという。

【10月23日(木)】両市場とも続伸

続伸。ニューヨーク市場の12月きりは7ドル(0.2%)高の**3120ドル**で引けた。序盤にはストップロスの買いが誘われ、1分間で53ドル上昇するなど、広いレンジでの値動きだった。ロンドン市場の3月きりは5ポンド(0.3%)高の2003ポンドで終了。12月きりは**2031ポンド**で引けた。

【10月24日(金)】両市場とも反落

ニューヨーク市場のココア先物は反落した。12月きりは70ドル(2.2%)安の**3050ドル**で引けた。一時、3037ドルまで値下がりしていた。

ロンドン市場の3月きりも反落し、43ポンド(2.1%)安の1960ポンドで終了。主要産地である西アフリカにエボラ出血熱が拡大するとの懸念で、トレーダーらはロングポジションを構築している。12月きりは**2023ドル**で引けた。

2、アジア：ココアバターレシオは14カ月ぶりの低水準(10/21)

トレーダーによると、ここ最近のココアバターの高値や、パウダーの過剰在庫がチョコレート消費量を抑え込んでいることから、高値にあったアジアのバターレシオはここ14カ月で最も低い水準となった。

バターレシオはロンドン先物価格に対して2.2で引き合いが出されており、昨年8月以来最も低い値になった。実際、メーカーからのオファーは2.25となっている。

バターレシオは2週間前には2.28～2.35をつけていた。

カカオ豆からは、おおよそ同数量のココアバターとパウダーが作られる。ココアバターはチョコレートに滑らかさを与え、パウダーはケーキ、ビスケット、飲料に用いられている。

カカオ豆の磨砕業者はバターとパウダーを生産し、バターかパウダーの一方の取引価格が安くなった際に、もう一方の販売分から利益を取ろうとする為、バターとパウダーの価格は通常、反比例している。

ここ最近では、バター価格が高騰しておりチョコレート製造業に勢いがなくなっており、トンあたり\$8,000ドルを超えていたバター価格が約\$7,000にまで下落している。

しかしトレーダーによると、それでも多くのチョコレート製造メーカーにとっては厳しい価格であるという。バター価格が下落したことを受け、パウダー価格が\$1,700～\$2,000のレンジまで上昇した。

シンガポールのディーラーは「問題は、この2週間の先物価格が再び跳ね上がっていることだ。その為、レシオが下がったとしてもバターを買いたがらない。」

「ただ一方で、バターは通常年末にかけて市場では完売する傾向にある。そのためメーカーは年内の使用分のバターは買おうとしているが、あえてこのタイミングで先の調達までは行っていない。」と述べた。

ココアバターの代替品として使用されているパーム油の価格が、過去5年の最安値とほぼ同水準であることから、ココアバターの価格はその圧力に直面するかもしれない。

ある関係者は、多くのメーカーはバターの高騰に悩まされており、製品のバターの含有量を減らす傾向にあると述べている。

また他のディーラーは「バターとパウダー価格に大きな影響を与えているのは、巷でのチョコレートの消費量であるが、ここしばらくはチョコレートに対する需要が落ち込んでいる。」と述べた。

米国ハーシー社では、西アフリカのエボラの影響でカカオ原料の供給に懸念を抱いているが、すでに2015年製造分までの原料の調達を終えている。火曜日に公表されたデータによると、北米のカカオ豆磨砕業高は、第3四半期には5%上昇した。カカオ豆先物価格がここ数年で最も高い水準であることを受け、チョコレート需要が減少するのではとの懸念がある中でこうした磨砕量増加のニュースは不安を打ち消す材料となる。

インドネシアでは、カーギルやバリーカレポー、ガンチョンなどの企業が次々とカカオ豆の磨砕工場を設立し、2014年の終わりまでには国内磨砕量が85%伸び、60万トンに到達する見込みである。しかし一方で、マレーシアにおけるカカオ豆の磨砕量は昨年より13.7%下落し、第3四半期は6万1428トンにとどまった。この減少はチョコレート需要の落ち込みと、原料高騰によるものとされている。

インドネシアは世界第3位のカカオ豆生産国で、国内最大の産地では10月から収穫が始まっている。しかしインドネシア・カカオ協会(ASKIND)によると、生産量は依然として低水準にとどまっているという。今年度のインドネシアのカカオ豆生産量は約42万5000トンにまで落ちると見られている。これは2006年以降で最も低い水準である。一方でインドネシアではカカオ豆の磨砕工場が増加している為、インドネシアのカカオ豆輸入量は300%増となる見通しである。

3、“ペルー原産 FORTUNATE No4 カカオ豆” 使用の世界で最もレアなチョコレート

1800年代、ペルー原産のFORTUNATO No4というカカオ豆から作られたチョコレートはFINEチョコレートの代名詞でした。

LOST : 1916年、ラテンアメリカのカカオの木は病害の被害を受けました。そして3年も経たないうちにその95%が枯死し、生き残ったカカオはわずか5%にも満たない本数となり、チョコレート原料としては姿を消し、FINEチョコレートは永遠に失われたとされました。

FOUND : ところが2007年、Dan Pearson氏とBrian Horsley氏は、ペルーのNacional Valleyにあるマラニオン・キャニオンから遠く離れた土地で、フットボールの形状の実をつけた木に出くわした。その実の多くは、40%の白いカカオ豆、60%の紫のカカオ豆のものと、中には100%が白いカカオ豆のものもあった。これらのカカオポッドは、世界で最もレアと言われているペルー原産のFORTUNATO No 4と同一品種であった。

カナダのGem Chocolate社のLost & Foundバーチョコレートは、このFORTUNATO No4を使用したレア

なチョコレートです。また他にも取り扱っている会社があります。

LOST & FOUND (カナダ)



MOON STUCK CHOCOLATE(米国)



BROAD RIPPLE (米国)



4、コートジ：エボラ蔓延の懸念から、輸出業者はカカオ豆の出荷を急ぐ(10/20)

カカオ豆世界最大の産地であるコートジでは、エボラウイルスの蔓延が収束しそうにないとの懸念から、カカオ豆の出荷を急いでいる。

ロンドンの国際カカオ協会によると、コートジの輸出業者は、カカオ豆が港に着荷したらなるべく早く、国外に出荷させようと努力をしているという。

コートジやガーナへエボラウイルスが蔓延する可能性があるという恐れから、今年の初めからカカオ豆価格は13.4%上昇した。ただし、この上昇はそこまで大きいとは言えない。なぜなら世界のカカオ豆の40%を担っているコートジの生産量は伸びており、コートジからのカカオ豆輸出力は増加しており、価格高騰を抑えている。

コートジ単体ではまだエボラの症例が確認されていない。しかし西に隣接するギニアやリベリアの2か国では現在までに4,500人以上の死者が出ており深刻な被害が報告されている。(WHO調べによる)

国際カカオ協会が金曜日に公表した文書によると、ギニア、リベリア、シエラレオネからのカカオ豆の出荷はかなり縮小しているという。この3か国のカカオ豆の生産量は大きくないが、ウイルス蔓延の懸念は国際カカオ相場に影響を与えている。

こうした状況を踏まえ、コートジではエボラの被害が及ぶ前に出荷をしようと急いでいる。コートジのメインクローブは10月から3月であるが、通常よりも多くのカカオ豆が出荷されている。ただしディーラーによるとこの出荷増の傾向は一時的なことであると見ている。

フランクフルトのコメルツ銀行、商品先物のアナリストの Michaela Kuhl 氏は、「大量のカカオ豆がコートジから出荷されており、カカオ豆価格の上昇を抑えている。しかしこれは一時的な出荷増によるもので、将来的にはカカオ豆価格は上昇するだろう。」と述べている。

「カカオ原料に対する需要と供給のバランスを考えると、エボラ感染が問題となる前からカカオ相場が高騰することが予測されていた。それは中国やインドでのチョコレート商品の需要が高まっているから。それに加えて西アフリカではカカオ樹木の老化が進んでおり、新しい木に比べ生産量が落ち、供給量が維持できなくなるだろう。」と続けた。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp